



すべての業務とつながるひろがる

奉行クラウド 導入事例 ▶ 合同会社ネコリコ

会計事務所と双方の生産性向上に最適な仕組みを検討 「もっと早くから勘定奉行クラウドを使えばよかった」

事業展開のスピードに対応し、信頼性がある 仕組みの答えが勘定奉行クラウドだった

ネコリコ設立に伴い、会計システムの導入が検討された。羽田公認会計士事務所の羽田悦朗氏が語る。

「経理業務をすべて任せたい」というネコリコ様からのご依頼でした。そこで、ご依頼に応えられる会計システムの検討を始めたんです。新会社は上場企業である中部電力株式会社のグループ会社。当然、安心できる実績や高いセキュリティが求められます。そう考えたとき、数ある会計システムの中で、最適だったのが勘定奉行シリーズでした」

ネコリコは家庭向けIoTプラットフォームを提供するITベンチャー。中部電力株式会社のグループ会社として確固とした基盤はあるものの、IT技術が進展して事業環境が急速に変化するなか、ベンチャー企業ならではのスピード感のある事業展開が求められる。企画部担当部長朝生勇也氏は会計システムの選定にあたり重視した点を語る。

「会社の成長に合わせて安定的に使い続けられることが最も重要でした。サービス開始に向け準備中ですが、将来的には事業内容を拡大する可能性もあります。そうした環境変化に、柔軟に対応できる会計システムが必要不可欠でした。それに上場企業の子会社としてさまざまな業務拡張が必要になることも考えられます。今後、親会社をはじめとしたステークホルダーから多種のデータを求められることでしょう。正直言って、多種多様なオーダーにスピーディーに答えていくにはほかの会計システムでは不安がありましたね。他社の会計システムは家計簿の延長上にある印象で、本格的な会計システムを探していた当社には物足りないと感じていました。勘定奉行シリーズはIPOをした会社で採用されるなど、これまでの実績は十分。勘定奉行のことを詳細に知るにつれ、当社に最適な会計システムだと確信しました」

導入製品



財務会計システム

**勘定奉行
クラウド**

合同会社ネコリコ

合同会社ネコリコは、中部電力株式会社と株式会社インターネットイニシアティブによる家庭向けIoTサービスのプラットフォームを提供する新会社として2018年4月2日に設立された。2018年秋にはIoTプラットフォーム「necolico HOME+」を提供予定でエネルギー事業者やケーブルテレビ事業者などの利用を想定している。「necolico HOME+」ではコミュニケーションアプリ「LINE」などを使用することで、電気使用量や温度、湿度などがリアルタイムで得られるほか、外出先からでも家電を操作できるようになる。防犯や見守りをはじめ、さまざまな用途への活用が見込まれている。

所在地…東京都千代田区東神田2-1-8
秋葉原クロスサイド6階
URL…<http://www.necolico.co.jp/>

プロの視点！勘定奉行クラウドを検討したきっかけ

- 中部電力のグループ会社として、実績と高いセキュリティのある会計システムを探していた
- スピード感のある事業展開に適した会計システムが必要だった

クラウドの本質を活かしたスピーディーな運用性を評価 標準化された「専門家ライセンス」が導入の決め手に

一般的に、オンプレミスとクラウドの違いというと、サーバーレスや初期コストを抑制できるなど、企業にとってのメリットが多くあげられるが、運用に関して言及されていることは少ない。では、実務担当者の目線から見たクラウドのメリットとは何か。実際に勘定奉行クラウドを導入した朝生氏はクラウドの運用性についてこう語る。



企画部担当部長
朝生勇也氏

「親会社からすぐにこの情報が欲しいと言われることがありますが、クラウドによって羽田先生とリアルタイムにつながっているの親会社からの要求にすぐに応えられます。羽田先生にわからない点などはいつでもアドバイスをもらうことができ、抜群に早く業務が行えますね。導入の初期段階では設定なども先生に支援してもらうことができ、初めて導入した会計システムでしたが、戸惑いや苦労はありませんでした」

さらに、導入を後押ししたのは標準で付いてくる「専門家ライセンス」。勘定奉行クラウドでは、公認会計士をはじめとした専門家と一緒に活用することを想定し、標準機能で専門家専用のライセンスを提供している。

「専門家ライセンスについて知ったとき、とてもビックリしました。“何かの間違いではないか。絶対に裏がある”と
思い、OBCさんのコールセンターに電話して確認しましたが、クラウドでは専門家と一緒に使うことが当たり前のよう

に求められるため、標準機能で搭載しているということでした。裏がないかももちろん確認しましたよ(笑)。クラウドの活用方法を最大限に活かすことができるのは、さすが勘定奉行という印象でした。

さらに羽田氏はこう付け加える。「外出が多い企業だと領収書などの提出が遅かったり、場合によっては打合せを実施して確認しながら業務を進めることがあります。勘定奉行クラウドではそのようなことが必要なく、クラウド上ですべて完結できるので「本当に便利だな」と感じました。特に、ネコリコ様は親会社様から細かな要望があるケースも多く、スピード感を出すにはクラウドで完結できる仕組みは非常に大きなメリットになりました」

ここを評価！勘定奉行クラウドを選んだ理由

- 標準で付いてくる専門家ライセンスで導入費用を抑制
- つながることで専門家から設定などの支援も受けられ、スムーズな導入が可能に
- 親会社からのオーダーにもスピーディーに応えられる

クラウド会計とは思えない性能とクラウド会計ならではの機能性でさらなる生産性向上を

4月から勘定奉行クラウドの運用を始め、四半期決算をトラブルなく終えた。クラウド会計を使用するのは「初めて」と語る羽田氏だが、勘定奉行クラウドの利便性の高さを実感しているという。

「タイムラグなく数字が反映されるから、朝生さんとリアルタイムに確認しながら業務を進めることができます。オンプレミスだとそうはいかないでしょう。疑問点はお互いにすぐに解消できるから、とてもスピーディー。コミュニケーションもより一層円滑になっています」

朝生氏はこう付け加える。

「決算を終えて親会社から試算表など、帳票を求められる機会が増えてきましたが、問題なく対応できています。勘定奉行クラウドは直感的に操作が可能なのでとても助かっています。また、ヘルプ機能が秀逸。操作でわからないことがあった場合でも、すぐに解消できるから、業務が止まることは滅多にありません」

羽田氏はこれまで会計の専門家として勘定奉行シリーズを操作してきた。勘定奉行クラウドの使い勝手はどうか。

「当事務所では勘定奉行は奉行i8を使用していますが、率直に言って、勘定奉行クラウドの出来のよさに驚いています。「もっと早くから勘定奉行クラウドを使えばよかった」と思っているほどです。勘定奉行の使いやすさ

そのままに、ショートカットキーによる直感的な操作など、これまで備わっていなかった機能も付加され、さらに業務を進めやすくなりました。クラウドの場合、パフォーマンスが悪い印象がありましたが、決してそうではない。会計のプロでもストレスなく使える操作性に仕上がっています。クラウドは絶えず進化していくと聞いていますし、きっと操作性はさらに向上して使いやすくなるでしょう。もちろん、クラウドになっても会計システムの機能性は十分。オンプレミスと同様に使えます。今後さまざまな処理が必要になるでしょうが、問題なく対処できるでしょう」

近年、オンプレミスからクラウドへの移行は加速している。とはいえ、オンプレミスを使い慣れた人にとって、クラウドは抵抗感のあるものかもしれない。

「私も勘定奉行クラウドを実際に操作するまで「大丈夫だろうか」と不安を感じていました。しかし、どうやら杞憂に終わりそうですね。インターネットショッピングが根付いたように、会計でもクラウドが当たり前のものになる日はそう遠くないでしょう。それくらいインパクトがあるほど、勘定奉行クラウドのメリットは大きいですね」

最後に当社の今後の展望を聞いた。

「事業展開が本格化して仕訳が増えていけば、さらに勘定奉行クラウドが活躍するでしょう。領収書をアップロードして自動的に処理する仕組みが整えば、リアルタイムに数字が把握できるようになり、経営判断をスムーズに下すことが可能になります。ゆくゆくはクラウドのメリットを生かして、給与や販売など、ほかのシステムとの連携を模索していきます」

IoTプラットフォーム「necolico HOME+」の提供を通して、人々の暮らしを便利で快適にする合同会社ネコリコ。勘定奉行クラウドは、経理業務の円滑化のみならず、当社と会計の専門家である羽田氏の関係を深めることにも寄与している。

導入効果と今後への期待

- 従来の勘定奉行よりもさらに進化した操作性で円滑に業務が行える
- 領収書のアップロード機能なども今後活用したい
- 給与や販売など、ほかのシステムとの連携も視野に